

# 温泉旅館が高齢者福祉活動

## デイサービス

東根市福祉事務所 中里 純一



さくらんぼ東根温泉では、朝からお年寄りたちの楽しい笑い声が聞こえてくる。

東根市では、六十五歳以上の高齢者の方々に地元ので湯につかってくつろぎ、元気で長生きしていただきたいと、平成十二年度から温泉旅館を会場にした新たな形態の高齢者デイサービスを実施している。この事業は、介護保険で自立と認定された高齢者を対象に実施しているもので、通称「いきいきデイサービス」といい、さくらんぼ東根温泉協同組合加盟旅館に大変低額でこの協力をいただき、土、日曜を除き毎日実施している。事業の運営は市の社会福祉協議会に委託し、社協のヘルパーが世話にあたり、健康チェックや健康体操、楽しみの温泉入浴、昼食、ゲーム、カラオケ等笑い声と笑顔に満ちた一日のスケジュールを送っている。

この事業を企画立案した理由は、第一に高齢者には介護予防施策が重要であり、そのためにはバジヤマや普段着でも行ける近所の集会所や老人施設のデイサービスよりも、少し

おしゃれをして出かけられ楽しめる場でのケアに、より予防効果が期待できるとの考えがあったこと。第二には、もちろん、お年寄りが好む温泉入浴が健康にもたらす効用にも十分期待できるものがあること。そして、第三に温泉旅館側から見ると、宿泊客のいない時間帯に低額ではあれ収入があり、しかも地域コミュニティへの福祉貢献が出来る、温泉旅館として高齢者に優しい施設であるという高い評価を得ることができるとはなにかとの側面にも大いに期待した。

平成十二年四月の事業開始以来、参加者からの評判は上々であり、今年度は利用登録者が六百人を超え年間延べ利用者も一万人を越すものと予想している。参加者へのアンケート調査でも、七〇%の方が「温泉旅館だから参加した」とし、九〇%の方が「とても満足した」と答えている。ノーマライゼーション社会を理想とするとき、生き生き人間社会の縮図である温泉旅館が、いかにデイサービス施設としてふさわしいものを持っているかを

再認識したところである。

この事業の受け入れについて、さくらんぼ東根温泉協同組合の元木和幸理事長（花の湯ホテル社長）は、「このデイサービスは一つの事業の活性化と見る人もいるが、これは結果的なことであって、受け入れは、そうしなればならない時代であることをとくと認識した上のものであった」と述べ、この考え方は、平成十二年度の温泉協同組合総会の中の事業目的に、「急速に進む高齢化社会の中で福祉事業については積極的に協力する」の一項目が新たに盛り込まれることにつながり、さらに活動を推進してきた。その結果、温泉協同組合はこの事業における社会的貢献が認められ、平成十三年五月に、「人に優しい地域の宿づくり賞」の最高賞である厚生労働大臣賞を受賞することとなった。

さくらんぼ東根温泉が損得勘定抜きで協力しているデイサービスには、高齢化社会の中で、温泉旅館が地域に溶け込み福祉に貢献してどう活性化を図るか、という試みがある。



楽しさが待っている温泉いきいきデイサービス

進む高齢化社会の中で、地域に貢献し、いわば温泉が出来うる社会的な役割をきちんと果たすことで、結果的であれ活性化に結びつけられれば理想的である。近年、温泉全体の集客力は右肩下がり傾向にあり、このような中、旅館側も遠方の大口団体観光客ばかりをあてにしては行かないのではないかと思う。時代に目を向け地域に開かれた温泉旅館の新たな戦略の模索が必要だ。前出の元木理事長は「このデイサービスができたのも地域の温泉場だからですが、私たちが地域から遊離して、営業はひと山越えた県外からのお客でいいんだという気持ちでは地元の人はとっ

つきにくくなりますね」と述べる。このデイサービス事業は今後の地域における宿づくりにも深くかかわりを持っていくことは確かだ。

現実としての高齢化社会到来を逆手に取り、温泉旅館の一つの生き方に出来る可能性はないであろうか。有利な点はいくつかあり、温泉入浴そのものや、旅館には老人福祉施設にはないきめ細やかで質の高いサービスがあるはずである。例えば、今回の東根市の事業を行政が提供した安価な団体旅行的デイサービスであるとすれば、個人旅行的デイサービスの内容はどうすればよいのか。また、デイサービスがあるのなら、温泉旅館のショートステイも可能ではないのか。もちろん、公的なサービスにないグレードの高さを売りにしている。自宅に寝たきりの高齢者や介護が必要な障害者がいる場合、家族の社会活動は極端に制限される。しかし、一緒に温泉旅行に行けて介護してもらえたならどうであろうか。また、若い世代が海外旅行に出かけている間に寝たきりの家族を温泉旅館にお願いできればどうかなど、今の時代だからこそ考え得るサービスや利用方法があるのではないか。仕組みは各自のノウハウとセンスの勝負である。決して「低収入」で「社会福祉貢献」のみではないはずだ。

制度的な展望としても、温泉利用に対する医療保険の適用、温泉旅館施設の福祉目的利用に対する資産税等の減免措置と施設整備補助制度等が考えられ、取り組みにもひと工夫必要となる。

これらは私見であり、温泉旅館と高齢化社会をつなぐことはビジネスになり得るので

はないかという仮説にすぎないかもしれない。しかし、そんな新たな展開の中で障害者や高齢者にとって、そして地域の中で、もつと温泉旅館が身近でさまざまな人々の人生に豊かさを与えてくれるものであつて欲しいと切に願っている。

東根市の社会福祉協議会では、訪問入浴サービスのうち、月に一回東根温泉の源泉を運び、在宅での温泉入浴を楽しんでいただいている。テレビ番組の中で、長年寝たきりになっている市内のあるお年寄りが自宅で温泉に浸りながら、「一生温泉など入れないと思っていた」と満面の笑みを浮かべていたのを見た。温泉は至上の幸福なのである。ましてやお年寄りにとっては替え難い楽しみになる。本県には四十四市町村全部に温泉が湧いている。地域社会にさらに優しい温泉になるにはどうすべきか、今後の展開に大いに期待したい。

## 中里 純一

東根市福祉事務所福祉主査。

東根市関山在住。

1954年 東根市生まれ。山形南高等学校、東洋大学法学部を卒業。

1978年 東根市職員に採用。農林、社会教育、税務を経て1998年から現職。

### 【東根市役所】

〒999-3795 東根市中央一丁目1番1号

TEL 0237-42-1111 FAX 0237-43-2413

URL : <http://www.city.higashine.yamagata.jp>

E-mail : [sougou@city.higashine.yamagata.jp](mailto:sougou@city.higashine.yamagata.jp)